令和 6 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

斜面樹林化技術協会

令和 6 年 10 月 4 日（金）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会が吹上樹林化施工地（長野県上高井郡高山村）で開催されました。当日は協会員 9 名が参加し，施工 21 年後の植生状況を見学しました。

当施工地は，長野県内に分布する強酸性土壌地の中でも標高 1,800m の風衝荒廃地のため特に荒廃が進行している崩壊地で，過去に何度も治山緑化の検討がなされてきましたが，未だ植生回復に至っていない現場です。周辺に生育している低木～高木性樹木を主体とした落葉広葉樹林の形成を緑化目標群落として，2003 年に斜面樹林化工法アルプラス仕様＋エコストライプ仕様が試験的に施工されました。緑化領域にはナナカマド，シラカンバ，クリーピングレッドフェスクなどの導入植物が生育し，施工 10 年後には緑化領域と自然侵入領域の差は解消されました。非常に厳しい生育環境とカモシカによる食害の影響もあり植物の生長は緩慢ですが，施工 21 年後にエコストライプ区ではナナカマドが被度 4 で優占し，シラカンバ，自然侵入したダケカンバ，ミヤマヤナギなどが生育する落葉低木群落が形成されました。一方，隣接する無施工区の植被率はわずか 5%であり，厳しい立地条件下でも適切な仕様を組み合わせることで斜面樹林化工法による植生回復が可能であることを間近で確認いただきました。

午後からは，万座プリンスホテルにて技術研修会が行われ，1）長野県林務部監修「強酸性土壌地帯の緑化対策の基礎」の解説，2）長野県須坂市の強酸性土壌地である山の神樹林化の植生推移について，3）斜面樹林化工法アルプラス仕様の概要について，4）2030 年ネイチャーポジティブの実現に向けた法面緑化とエコストライプ仕様の変更について事例を交えてご説明し，斜面樹林化工法の各仕様について理解を深めていただきました。



現地見学会



技術研修会



現場説明を受ける参加者